

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な人々と協働することで、急激に変化する社会に対応し、展望を持って自らの人生を切り拓き、「自分で未来に近づく」人材を育成します。

総合学科の特色を生かし、様々な学習や体験を通して、基礎学力に加えてこれからの社会で生き抜くために次の「白稜シップ」を育みます。

1. どんな時も投げ出さない、考え抜く強さをもちます。
2. ゴールに向かって、多くの人と協働します。
3. 変化を恐れず、一歩前へ踏み出します。
4. 創りだすことを楽しみます。

2 中期的目標

1 考え抜く力を育む（白稜シップ1）

- ・生きて働く「知識・技能」の定着を図り、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む
- ・間違いを恐れず、生徒が自らの課題を見つけたり、考え学びを深めたりできるように主体的・対話的で深い学びを推進する
- ・学校設定科目「リーディングスキル基礎」「同 応用」を通して、すべての学習の基礎となる「読んでわかる力・聞いてわかる力・見てわかる力」を育む
- ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通して教員の授業力向上を図る

2 人と協働する力を育む（白稜シップ2）

- ・社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みを進める
- ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取り組みにより、生徒の自尊感情を育む。
- ・「産業社会と人間」やLHR、総合的な探求の授業での学びや体験を通して「他者への思いやり」ができる社会人としての基礎力を身につけさせる

3 踏み出す力を育む（白稜シップ3）

- ・「産業社会と人間」の授業をスタートに、科目選択や3年間のキャリア教育、体系的な進路指導を通じて、生徒が自ら目標を設定し、その達成に向けて行動する力を育む。結果として進路決定率を保持する
- ・外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を育てる
- ・インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の進路実現を促進する
- ・学校設定科目などを通じ、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育てる

4 創造する力を育む（白稜シップ4）

- ・「産業社会と人間」、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間、課題研究などを基幹とし、すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やしていく
- ・身につけた知識や情報を生かして、企画・制作・発表などを行い、学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む
- ・清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める

5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり

- ・生徒の実態把握に努め、関係者間で情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- ・外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。「わたしカフェ」の取り組みを継続させる。
- ・SC、SSW等の専門人材、福祉等の関係機関との連携を深め、「社会とのかかわり」という視点も持ちつつ、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。

6 学校の運営体制

- ・カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを確立させる。
- ・「大阪府教員等研修計画」を活用し、研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続する。
- ・本校の特色や状況に応じた長時間勤務の縮減に向けた取り組みや、時間や健康の管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。
- ・より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。

* 2021年度目標

- ・進路決定率を全国平均以上（H30 泉尾高校 94%）
- ・学校教育自己診断における「白稜シップ」の肯定率平均を75%以上（H30「考え抜く」52.9%、「協働」60.4%、「チャレンジ」56.8%、「創りだす」54.2%）
- ・就職1次内定率75%以上で、就職内定率100%を維持（H30 泉尾高校 1次内定率94%、内定率100%）
- ・医療、保育、福祉系への進学者及び就職者数35人（H30 泉尾高校 4人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実 (2) わかる授業、充実した授業づくり	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせる主体的、対話的で深い学びの推進。 イ. 朝活動と連携しながら、「リーディングスキル基礎」の授業を通して、読解力を育む。 (2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ. 校内や他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ. 授業見学週間を設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 75%以上 (泉尾 H29: 69% H30: 75%) (2) アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 65%以上 (泉尾 H29: 52% H30: 68%) 1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」(白稜シップ1)の肯定率を 55%以上とする (H30 52%)	
2 人と協働する力を育む	社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア. 「産業社会と人間」、総合的学習の時間、総合的探求の時間、特別活動などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。 イ. より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。 ウ. 文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を 65%以上 (H29: 65% H30: 66%) イ. 清掃活動に参加する生徒の率を 50%以上 (H29: 50% H30: 50%) ウ. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率 70%以上を維持する (H29: 63% H30: 70%) 2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シップ2)の肯定率を 65%以上とする (H30 60%)	
3 踏み出す力を育む	学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実	ア. 様々な学習や、2、3年次の科目選択、それに向けたガイダンスを通して、自らの目標を設定し、その実現に向けた取組みを進める イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。また資格取得にも積極的に取り組む。 ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。 エ. 部活動の加入率を上げる。	アイウ 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を 70%以上 (泉尾 H29: 73% H30: 69%) エ. 部活動加入率を 30%以上 (H29: 28% H30: 30%) 3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シップ3)の肯定率を 60%以上とする (H30 56.8%)	

4 創造する力を育む	<p>(1) 学習活動における発表機会の充実</p> <p>(2) 地域との交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア. アクティブラーニングを推進し、授業における生徒の発表機회를充実させる。</p> <p>イ. 「産業社会と人間」、「総合的学習の時間」「総合的探求の時間」などでは、ディベートや発表会を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。</p> <p>(2)</p> <p>ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率60%以上(泉尾 H29 : 52% H30 : 69%)</p> <p>(2)</p> <p>年間5回以上の交流機会を設けることができたか。</p> <p>4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シッポ4)の肯定率55%以上をめざす(H30 54%)</p>	
5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	<p>ア. 生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。</p> <p>ウ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率60%以上(泉尾 H29 : 59% H30 : 60%)</p>	
5 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	<p>ア. 計画的な教職員研修の実施</p> <p>イ. 学年が連携した学校運営</p> <p>ウ. 「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動のガイドラインに沿った取り組みを進める。</p> <p>エ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実</p> <p>オ. ホームページ、学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる</p> <p>カ. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれによりPTA活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア. 年間5回以上の職員研修を実施できたか</p> <p>イ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率60%以上(泉尾 H29 : 63% H30 : 57%)</p> <p>ウ. 学校閉庁日、定時退庁日の設定。部活動ガイドラインの徹底。</p> <p>エ. 1年間に3件以上改善できたか</p> <p>オ. 定期的に更新できたか</p> <p>カ. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数の増加5%以上(泉尾 H29 : 376名 泉尾・大正白稜 H30 : 415名)</p>	